

海外学生派遣事業 終了報告書

氏名: 加藤直子

所属: 先導科学研究科 生命共生体進化学専攻

派遣先: アメリカ合衆国

海外派遣先機関名: University of California, Los Angeles

派遣期間: 2008年7月22日～2008年8月21日



ロサンゼルスのだウンタウン

授業・研究の進捗状況

現在、5年一貫博士課程の2年である私は、博士研究に関する予備的調査を始めたばかりのところである。そして今回の渡航の第一の目的は、エスノグラフィ的手法による「科学の人類学」を専門とされるSharon Traweek氏から、具体的なフィールドワークのノウハウを個人的に学ぶことにある。Sharon Traweekとは、週に3回程度のミーティングを行い、1回2～4時間の議論を行った。1週間に1回、ウィークリー・レポートを作成し、議論のまとめと研究の進捗状況の報告を提出した。今回の派遣においてTraweek氏と議論したことにより、来年度から開始する予定の本格的調査の基礎を築くことができたのは、大きな収穫であった。

また、UCLAのThe Young Research Libraryを頻繁に利用した。この図書館は大変資料が充実しており、洋書関係はもちろんであるが、驚いたのは東アジア研究センターにおいて、人文社会科学分野の日本語のジャーナルも各種配架されていることである。私が所属している総研大葉山キャンパスの図書館は、極端に資料が少ないので、UCLAの図書館の充実度は非常にありがたかった。また、図書館の司書さんは非常にプロ意識が高く、何度質問しても「そのために私が存在しているのですよ。」と、

丁寧に応じてくれた。図書館のパソコンから検索結果を直接自分のメールアドレスに送信できるなど、制度的にも充実していた。ただし、コピーサービスについては、セルフでもUCLAの学生と学外の利用者と2倍近い料金差が設けられていたのには閉口した。

派遣期間が夏休み中のこともあり、特に授業への登録は行わなかった。

生活関連状況

UCLA近郊のWestwoodは、高級住宅街の真ん中であり、学生街でもあるため、治安は非常に良い。夜でも一人で歩いている女性が多く見受けられる。もっとも、暗くなったら出歩かないなど、用心するに越したことはない。また、Westwoodはロサンゼルスといえども内陸部から離れており、冷たい海水温の影響で、夏でも夜になると上着が必要なときもあるくらいである。実際、住んでいたアパートのエアコンは、一度も使用しなかった。

Westwoodの中心街であるWestwood Villageには、おしゃれなブティックやレストランが林立し、そこで生活するUCLAの学生たちは一見テレビドラマのような青春を謳歌しているように見える。Westwood Villageの映画館街には、時々レッドカーペットが敷き詰められ、プレミアが行われる。黒いリムジンに乗ったハリウッドスターが現れ、人々の歓声の中でこやかに手を振り、サインに応じている。私もスーパーの買い物帰りにその現場に出くわして、あまりの人だかりのため遠回りをして帰宅せねばならず、困ったことがあった。そのような華やかな通りから100Mも離れていない路地には、ホームレスたちが(女性も!)路上生活をしていて、アメリカ社会の光と影が垣間見られた。年間を通じて温暖な気候である上、高級住宅街に近いということは治安も良いことから、おそらく女性ホームレスにとって数少ない安全な場所なのかもしれない。

私には車がないことから、UCLAに歩いて通える距離にある近くの賃貸アパートに滞在したが、東京都心以上に高い家賃に驚いた。アメリカは日本と比較して奨学金が充実しているとはいえ、Westwoodにアパートを借りるのは通常の学生にとってほぼ不可能に近いと思われる値段である。UCLAに歩いて通える距離(徒歩30分以内)のアパートは、どれもワンルームタイプで日本円にすると一ヶ月14万円から15万円もする。食料品や生活必需品などの物価も非常に高い。レストランも、チップを含めると東京の中心街よりも割高であると感じるほどである。

その他報告すべき事項

アパートを借りる場合、洗濯は地下に備え付けのコインランドリーで一括して行うようになっている場合が多い。コインランドリーに限らず、駐車料金でもコインはクォーターコイン(25セント)だけしか受けないことも多いので、計画的に25セントを集めておいたりした。バスもコインしか受け付けないがコインなら何でも良かったので、一度溜まってしまった1セントを20枚くらいバスで使用したりした。

アドバイス

とにかく受け入れ先の教員と早めに連絡をとることが大切である。特に夏休み期間に訪問するような場合には、滞在中どんなことを学びたいのか、また期間中どれくらい頻繁に受け入れ教員とやりとりするのか、事前によく打ち合わせることが大切である。受け入れの承諾や研究面での打ち合わせのみならず、滞在が1ヶ月以上の長期になる場合は、アパートの手配など生活面が重要になってくる。治安や利便性だけでなく、家賃の面も含めて、よく検討することが大切である。

私の場合、渡航が決まったのが UCLA のサマースクールの授業登録期間終了後だったので、学生寮に滞在することができなかった。学生寮と民間のアパートでは料金が大きく異なるので、注意する必要がある。結局、受け入れ担当教員の紹介により、フィールドワークに出かけていて夏季期間中不在の大学院生のアパートを“また借り”することができたので、良かったと思う。



LA 郊外の Sawtelle 日系人コミュニティで開催された
“Obon Festival”



アメリカ文化の象徴ともいべき「大リーグ」。
ロサンゼルス Dodger Stadium